

## 「国内最大規模」を見学 佐賀地区津波避難タワーに梶原町民

梶原町東区の住民82人が6月16日(金)、今年3月に完成した佐賀地区津波避難タワーを訪れ、沿岸部の防災対策を学びました。

梶原町は、南海トラフ巨大地震による被害想定で震度6強から一部の地域では7と予想され、土砂崩れによる集落の孤立化や避難場所の確保を課題としています。

今回視察の対象となった浜町地区など黒潮町内では、津波による甚大な被害を想定しタワーの建設が進んできましたが、一方の梶原町は山間部に位置することから、津波による被害は想定されていません。

山と海、それぞれ異なる環境下では防災対策にも違いがあります。同町東区区長の西川豊正さんは、「状況は違うが、他市町村の防災対策を実際に見ることで、自分たちのまちには何が必要かが見えてくる。住民が自主的にアイデアを出し、自分たちの地域を守っていくことが大切」と、視察の意義を言葉にしました。



タワー内部で説明を聞く視察隊

## 一人ひとりに逃げる力を 入野小学校下校時避難訓練

入野小学校の児童ら125人が7月7日(金)、下校時に地震および津波が発生したことを想定し、避難訓練を行いました。

下校時を想定したものは初めての取組であるということ。午後4時に体育館へ集合した児童らは各方面へ下校し、その後午後4時20分に地震発生を知らせる町内放送が流れ、各地区ごとに指定された避難所や避難場所へ移動しました。

入野小学校に避難した児童らは、「地震が起きたらパニックになりそうだけど、急いで逃げるのが大事だと思った」と話しました。

今回の実施について前田浩文校長は、「授業中の訓練など、学校の目が行き届く環境での訓練だけではなく、小学校を離れた時に自分たちの力で災害時に逃げる力をつけてほしい」とその思いを話しました。



駆け足で高台へ避難する児童ら

## 入野ローカルら救命講座を受講

入野の浜を拠点とするサーファー「入野ローカル」18人が7月17日(月)、黒潮消防署で普通救命講習を受講し、救命処置の方法を学びました。

同講習会は、入野ローカルの尾崎真平さんらが「黒潮町の安全に関わっていけるように」と仲間たちへ声をかけをして実現したもの。1時間程度のビデオ講習を受け、その後AEDを使った一次救命処置を学びました。

半数は初めての受講で、「子どもの場合はどうするのか」など消防署員に細かく確認をしながら進めました。



すらすら掃除する尾崎さん  
浜清掃除

また、前日に行われていた幡多地域の砂浜一斉清掃でもローカルサーファーら30人ほどが「地元を綺麗に」と入野の浜の清掃に励みました。

尾崎さんは、「ローカルが地元を守護するの海を守ることに貢献できるように、今後清掃や救命講習などを続けていきたい」と話しました。



サーファーら学ぶ心肺蘇生法

## 心肺蘇生法とAED講座

地域子育て支援センターで7月13日(木)、乳幼児のいる家庭を対象に、心肺蘇生法とAEDの講座を行いました。

黒潮町消防署の職員による説明の後、参加者は乳幼児の等身大蘇生訓練用人形を使用して、蘇生法やAEDの練習を行いました。

参加者は「大人と乳幼児は体格差があるから、手の位置や力加減の感覚がつかめるので参加してよかった」と話していました。



## 黒潮グラウンドプレオープン

土佐西南大規模公園大方地区多目的広場に完成した、高知県初のフットボールセンター人工芝グラウンドのプレオープンイベントが7月15日(土)、行われました。

オープンイベントでは人工芝に触れてもらおうと、地元のサッカー愛好者の皆さんに、講師を招いてのサッカー教室やプレオープン記念マッチが行われました。

